

令和5（2023）年度「卒業生採用に関するアンケート調査」結果概要

I. 調査時期、対象施設、回収結果

調査時期：令和6（2024）年1月

対象施設：令和4（2022）年度看護学科卒業生就職先

（医療介護福祉学科は3年制課程への移行期であったため卒業生はいなかった）

調査方法：Google フォームを用いたオンラインアンケートと質問紙を用いた郵送アンケートのいずれかで回答

回収結果：看護学科は1施設あたり複数部署に送る場合があるため施設数と件数を示す。

対象施設		回収数 (件数)	件数に対する回収率
施設数	件数		
42	72	46	64%

II. アンケート結果および分析

1 施設基本事項

1) 地方・都府県別回収数

地方	都府県	地方別回収数	都道府県別回収数
関東地方	東京都	3	2
	神奈川県		1
近畿地方	大阪府	2	2
中国地方	岡山県	38	34
	広島県		4
四国地方	香川県	2	1
	愛媛県		1
九州地方	大分県	1	1

2 調査項目

A 採用について

1) 組織で職務遂行上、重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	項目	令和5年度	令和4年度
①	主体性	4.6	4.5
②	他人に働きかける力	4.3	4.4
③	実行力	4.4	4.4
④	課題発見力	4.2	4.3
⑤	計画力	4.1	4.1
⑥	創造力	4.1	3.9
⑦	発信力	4.2	4.0
⑧	傾聴力	4.6	4.6
⑨	柔軟性	4.6	4.7

⑩	状況把握力	4.4	4.5
⑪	規律性	4.5	4.5
⑫	ストレスコントロール力	4.5	4.6

令和5年度未回答：3

その他重視している事項（自由記述；冒頭の数字は自由記述の件数、以下はその内容）

3：他人と比較せず自己の目標達成度を評価する力、看護実践能力、常識力

【分析】

職務遂行上重視する能力はいずれも4点以上と高い値であり、特に、「主体性」「傾聴力」「柔軟性」は4.6、「規律性」「ストレスコントロール力」は4.5と高い傾向にあった。昨年度と比較すると、「主体性」「創造力」「発信力」の値がやや上昇した。看護師には社会人基礎力それぞれの要素をバランスよく身につける必要があり、とりわけ、主体性を持って「チームで働く力」を有し、ストレス耐性のある人物が求められている。

2) 採用時に重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	項 目	令和5年度	令和4年度
①	基礎学力	4.2	4.1
②	専門知識・技術	3.9	3.7
③	職務遂行能力（意欲、段取り力、実行力）	4.4	4.2
④	倫理観	4.6	4.7
⑤	社会性（公共心、誠実性、責任感）	4.7	4.6
⑥	コミュニケーション能力	4.5	4.7
⑦	対人関係・仕事の協調性	4.6	4.5
⑧	基本的マナー	4.6	4.5
⑨	課題解決能力	3.9	4.0

令和5年度未回答：5

その他重視している事項（自由記述）：なし

【分析】

採用時に重視する能力としては、「社会性」「倫理観」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」「コミュニケーション能力」が高かった。昨年度と比較すると、「基礎学力」「専門知識・技術」「職務遂行能力」「社会性」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」がやや上昇した。「倫理観」「コミュニケーション能力」はわずかに低下したものの、他に比較しても高い値であった。全体的な傾向は昨年度とほぼ同様であり、「基礎学力」「専門知識・技術」「課題解決能力」を有していること以上に、倫理観を持ってマナーを守り、周囲と十分なコミュニケーションをとりながら協調して職務を遂行する人材が望まれているものと推察される。

3) 面接時に注意してみる態度

当てはまるものを全て選ぶ質問。総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する％で示した。

	項 目	令和5年度	令和4年度
a	入退出時の挨拶	53%	61%
b	服装・身なり・髪型	71%	70%
c	顔の表情	82%	64%

d	話し方・言葉遣い	76%	82%
e	声の大きさやトーン	37%	41%
f	話を聞くとときの姿勢	76%	73%
g	話しているときの姿勢	55%	52%
h	目線の方向や動き	45%	64%

令和5年度未回答：8（うち1件は、採用面接をしていない）

その他重視している事項（自由記述；冒頭の数字は自由記述の件数、以下はその内容）

4：自分の言葉で回答できるか(2)、質問した内容にわかりやすく返答できるか、話の内容

【分析】

面接時に最も重視されるのは「顔の表情」であり、次いで「話し方・言葉遣い」「話を聞くとときの姿勢」が上位に挙げられていた。昨年度と比較すると、「顔の表情」は大きく上昇し、「服装・身なり・髪型」「話を聞くとときの姿勢」「話をしているときの姿勢」がやや上昇した。一方で、「入退室時の挨拶」「話し方・言葉遣い」「声の大きさやトーン」「目線の方向や動き」は低下傾向であった。採用側は、「入退室時の挨拶」「身だしなみ」「声」「目線」だけでなく、共感的な表情・態度で言語・非言語のコミュニケーションが適切に行えるかどうかを評価していることがうかがえる。

B 採用した本学の卒業生について

1) 本学卒業生の印象

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	項 目	令和5年度	令和4年度
①	基礎学力	3.3	3.2
②	専門知識・技術	3.2	3.1
③	職務遂行能力（意欲、段取り力、実行力）	3.4	3.2
④	倫理観	3.6	3.4
⑤	社会性（公共心、誠実性、責任感）	3.5	3.5
⑥	コミュニケーション能力	3.5	3.3
⑦	対人関係・仕事の協調性	3.3	3.3
⑧	基本的マナー	3.4	3.5
⑨	課題解決能力	3.0	3.1
⑩	注意や指導を受けた後の対応力	3.2	3.2

令和5年度未回答：5

その他の印象（自由記述；冒頭の数字は自由記述の件数、以下はその内容）

5：前向きで協調性や社交性も備えているが、緊張感や慎重さが乏しい傾向がある。素直。一生懸命に取り組む人もいるが個人差が大きく、マナーや指導時の態度などができていない人が目立つ。素直さ・誠実さはあるが、柔軟性に欠ける人もいる。業務の拡大とともに成長を感じる。

【分析】

本学の卒業生の印象として、「基礎学力」「専門知識・技術」「職務遂行能力」「倫理観」「コミュニケーション能力」は昨年度よりもわずかではあるが高くなった。一方、「基本的マナー」「課題解決能力」は昨年度よりもわずかに低かった。「やや劣る」以下の評価も①～⑩の全てにおいて数件あり、なかでも「課題解決能力」と「注意や指導を受けた後の対応力」において「やや劣る」が多かった。採用側の重視する「社会性」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」を伸ばすとともに、「基礎学力」の定着と「課題解決能力」の涵養にも注力したい。

2) 本学看護学科卒業生が身につけている能力

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

項 目	令和5年度	令和4年度
①看護師に必要な知識とともに、専門職者としての基本姿勢と態度を備えている。	3.3	3.3
②根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。	3.0	3.1
③看護専門職者としての誇りを持ち、研修・研さんを行う意欲と能力を身につけている。	3.4	3.2

令和5年度未回答：5

【分析】

昨年度と比較すると、「②根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している」の評点がわずかに低下し、「③看護専門職者としての誇りを持ち、研修・研さんを行う意欲と能力を身につけている」が上昇した。新型コロナウイルス感染症の蔓延期に学生時代を過ごした影響もあるかもしれない。引き続き、看護専門職者としての基本姿勢を備え、根拠に基づいた看護実践ができる学生を育てていく必要がある。

3) 本学卒業生の傾向

①他校出身者と比較して優れている部分（自由記述；冒頭の数字は自由記述の件数、以下はその内容）

21：素直さ(5)、前向きに行動する(2)、意欲的(2)、コミュニケーション能力(2)、組織人・社会人としての態度・姿勢(2)、真面目な勤務態度(2)、患者・家族への接遇・姿勢、礼儀正しく誠実な態度で看護に向き合う、積極的、学びを実践に生かす能力、失敗を次に生かす、特になし

②他校出身者と比較して劣っている部分（自由記述；冒頭の数字は自由記述の件数、以下はその内容）

23：学力(2)・調整力、提出物の期限を守らない時がある、学習する姿勢、自分の考えを表現しにくい、対応力、積極性・発信力、実践能力、社会人・職業人としてのマナー（報告の方法・言葉遣い）、ストレス耐性、自己発信、コミュニケーション能力、特になし(10)・みんな同じくらい

③過去の卒業生と比較して変わったと感じる部分（自由記述；冒頭の数字は自由記述の件数、以下はその内容）

16：おとなしい人が増えているが自分の意見は持っている、同期同士で情報共有できている、コミュニケーション能力、主体性のなさ、挨拶ができない、社会性の低下、医療者としての認識（体調管理）、マナー、個人差が大きい、それぞれに特性があり特に感じたことはない、特になし(6)

4) 本学卒業生を採用したことの総合的満足度

5段階（5：満足、4：やや満足、3：どちらとも言えない、2：やや不満、1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度	令和5年度	令和4年度
	4.3	4.2

5) 採用した学生について気づいた点（自由記述 10 件）

- ・ 個々の能力が異なるため全体の評価は難しい
- ・ 落ち着いて行動できる
- ・ 一生懸命である
- ・ コミュニケーション能力があり人間関係も良好に保てている。前向きに課題に取り組むことができている
- ・ 将来目指したい部署などが表現できている。悩みなどを周囲に相談し、出勤できている
- ・ 何事にも真摯に向き合い、自己研さんに取り組んでいる。看護が楽しいと言っていただけあって明るく元気である。とても嬉しく感じている
- ・ 接遇態度が良く、真面目で、好感が持てる人柄である
- ・ 積極性がない、何回言ってもメモをとらないからできない・しない
- ・ 手術室待機業務の見習い中で、独り立ちの目途が立っていない。課題達成のための行動変容がなかなかみられず、部署全体で悩んでいる。
- ・ 特になし

【3)4)5)の分析】

本学の卒業生を採用したことにに対する総合的満足度は 4.3 で、昨年度よりもわずかに上昇し、昨年度と同様、「やや不満」以下の評価はなかった。卒業生の傾向の指摘には、本学の指導に対する良い評価につながるものが多かった。コミュニケーション能力については「優れている」と「劣っている」の両方の評価があったことから、個人差が大きいことがうかがえる。良い点として挙げられている素直さや意欲、真面目さといった資質を生かすとともに、自己研さんに取り組む力や積極性、問題解決能力、社会的スキルなどを身につけさせ、医療福祉の現場にふさわしい人材に育てていく必要がある。

6) 本学学生に充実を求める能力（上位 3 項目の選択）

総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する％で示した。

	項目	令和 5 年度	令和 4 年度
a	基本的マナー	64%	64%
b	コミュニケーション能力	73%	86%
c	対人関係調整力	58%	60%
d	幅広い教養と基礎学力	22%	26%
e	深い専門的知識・技能	11%	10%
f	文章読解・表現能力	16%	17%
g	リーダーシップ	2%	5%
h	課題解決能力	38%	45%
i	プレゼンテーション能力	0%	5%
j	マネジメント能力	2%	5%
k	コンピュータ活用能力	4%	5%
l	指導能力	0%	2%
m	外国語の能力	0%	0%
n	国際的視野	0%	0%

令和 5 年度未回答：1

その他充実が必要な事柄（自由記述）：なし

7) 本学に対する意見、希望（自由記述 12 件）

- ・いつも優秀な方に就職してもらい感謝する。香川県出身の方には当院をすすめていた
だきたい。今後とも、どうぞよろしく願いいたします
- ・多くの卒業生が当院でも活躍いただいております、当院の発展に貢献いただいている。今
後ともよろしく願いいたします
- ・明るく元気な印象である
- ・今回就職した方は既に退職したが、非常に頑張り屋であった。良い学生様を送りだし
ていただきありがとうございます。引き続き貴校の学生様とご縁があれば幸いです
- ・今後ともよろしく願いいたします
- ・年代によって卒業生のカラーがあるように感じる
- ・個人差はあるが、アセスメント力が弱く自信のなさを感じる。大変と感ずることも乗
り越えようと頑張ってはいる
- ・わからなくてもできなくても良いが、わからない時の自分なりの学習の方法がしっか
り身につけていたらいいのではと思う
- ・文章力をつける
- ・基本的なマナー（社会人として）は入職するまでに学んでおいてほしい
- ・看護師は夜勤が必要とされる職業であり、夜勤を行うための体調管理や自己コントロ
ールが必要だが、それに対する事前のイメージや体験が必要なのではないかと感ずる
ことがある
- ・看護師の資格を取得したらそれで終わりではないので継続して学習する姿勢・意欲が
必要。最低限の社会人基礎力を身につけて就職してほしい。今後ともよろしく願い
致します

【(6)7)の分析】

本学の学生に充実を求める能力として3項目を選んでいただいた。その結果、「コミュニ
ケーション能力」「基本的マナー」「対人関係調整力」が高く、続いて「課題解決力」も
高かった。指導の成果は少しずつ表れてはいるものの、看護師の多様な業務に対応でき
るよう、個々の学生の対人能力や課題解決能力を涵養していくことが求められている。

なお、5)および7)の自由記述において、一部の卒業生に対する非常に厳しい意見が書か
れていた。限られた例であろうと思われるが、今後とも個別指導を徹底するとともに、本
人の適性にあった就職先の選択ができるよう指導していく必要がある。

今後の課題

1 大学としての課題と対策

令和4（2022）年度の看護学科卒業生を採用していただいた施設を対象に、本学の教育が
それぞれの専門職組織が求めている人材育成になり得ているかどうかの評価とご意見を
いただいた。採用先からの評価やご意見を本学の教育改善に反映させることが、このアンケ
ート調査の目的である。

アンケートの回収率は64%、総合的満足度（1～5の5段階評価）の平均値は4.3で、お
おむね満足という評価をいただいた。また、アンケート結果の分析から、基本的マナーと社
会人基礎力の涵養を図ることが重要であると考えられた。

このため、就職活動支援講座を低学年から行うとともに、大学と学科が連携し、入学時の
オリエンテーション、講義や演習・実習、ホームルームでの担任の集団指導・個別指導など
において、繰り返し指導していく必要がある。特に、臨地実習は社会人基礎力を伸長させる

重要な機会となり得る。入学時から3年間の学生生活を通じて、将来の職場が病院であるということ認識させ、学びと社会性に対する動機づけを図りながら、専門職に対する自身の考えを構築することができる学生を育てていきたい。

2 看護学科の課題と対策

就職先が本学科の学生に充実を求める能力の上位は「コミュニケーション能力」「基本的マナー」「対人関係調整力」であった。これらは就職先が採用時に重視する能力の上位とも重複していることから、講義や実習、授業外の指導を通して、これらの能力が育つよう充実した教育を行っていく必要がある。

看護師は、患者や家族、医療チームと円滑にコミュニケーションを図ることが求められ、「コミュニケーション能力」は採用時の重要な要素となっている。そのため、今年度より就職活動支援講座の一環として、1年次生を対象とした就活支援企業が推薦するコミュニケーションワークショップを開催し、ワークを通じて看護師に求められるコミュニケーション能力を体系的に学ぶ機会を設けた。

「基本的マナー」には、学生の日頃の生活態度や習慣が大きく反映される。入学時より講義、演習、実習の中で指導を行っているが、教員からの一方向の指導ではなく、学生自身が「看護師として必要なマナーや接遇」「日常生活態度の見直しの大切さ」に気づき、主体的にマナーを考えた行動ができるように指導の工夫が必要である。

「対人関係調整力」については、臨地実習が対人関係を育成する重要な機会であることから、ポートフォリオを活用して自己理解や自己の課題を意識していけるように、継続して指導していく必要がある。実習や演習を通して自分自身の考えや思いを言葉で表現すること、あるいは他者とのディスカッションを通して多様な考え方を知り、互いに認め合うことは、対人関係調整力を向上するための有効なトレーニングになる。したがって、臨地実習を専門知識・技術の獲得や看護実践の体験の場とするだけでなく、社会人基礎力の向上の場になることを学生が意識するよう教員が働きかけることが必要である。

本学科卒業生を採用したことに対する総合的満足度 4.3 は過去5年間で最も高く、本学の就職支援講座をはじめとした指導の効果が表れてきていると言える。今後も多様化する学生に応じて、適切な就職支援に努めるとともに、学科教員が協同して社会人基礎力を高めたい。